

令和8年度 第1回 JCHO 東京蒲田医療センター地域協議会議事録

日 時：令和8年6月19日（金）14：00～15：00

場 所：東京蒲田医療センター 健康管理棟2階大会議室

出席者：吉村 和久（大田区保健所所長）

宮島 良輝（医療法人社団誠動会 テクノポートクリニック院長）

小泉 昭子（社会福祉法人池上長寿園 大田区立特別養護老人ホーム蒲田施設長）

薄井 明彦（岩井機械工業株式会社常任顧問）

佐藤 和男（南蒲田一丁目自治会会長代行）

田中 宏明（南蒲田二丁目町内会町会長）

増田 行雄（南蒲田三丁目町会町会長）

田村 晃（東京蒲田医療センター院長）

宮澤 秀明（東京蒲田医療センター副院長）

坂田 義人（東京蒲田医療センター副院長）

永井 英成（東京蒲田医療センター副院長）

井澤 裕匡（東京蒲田医療センター事務部長）

阿部 亜希子（東京蒲田医療センター看護部長）

野村 生起子（東京蒲田医療センター副看護部長）

佐藤 裕子（東京蒲田医療センター地域連携室看護師長）

夏目 みゆき（東京蒲田医療センター地域連携室 MSW）

岡村 綾子（東京蒲田医療センター総務企画課長）

池田 光宏（東京蒲田医療センター総務企画課長補佐 地域連携係長併任）

浜田 梨加（東京蒲田医療センター地域連携室事務員）

【議事内容】

1. 院長挨拶
2. 令和8年度委員紹介
3. 地域との交流（報告）

阿部委員より

今回、委員の方から「当院の『JCHO（ジェイコー）』とはどのような組織か。」というお言葉をいただき、改めてお話いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

我々は「独立行政法人地域医療機能推進機構」、これを略して「JCHO（ジェイコー）」と呼んでいる。民間へ委ねた方が効率的に実施される業務は民営化されている。また、国民の権利に直接影響を及ぼすような業務は国が行っている。民間へ委ねると実施されない恐れがあり、公共性の高い業務を司る役割を担っているものが独立行政法人となっている。

独立行政法人の種類は3つ掲げており、当院は「中期目標管理法人」となり、厚生労働省の所管となる独立行政法人の病院となっている。我々の地域医療機能推進機構は、地域における医療の提供を行うものとして、「地域ニーズの把握」「地域の診療所や病院、介護施設などとの連携」がある。また、こうした地域協議会などの皆様の声をお聞きする場を有している。さらに、財政面での自律的な運営を求められており、独立行政法人には「運営交付金」と言われるような国からの財政支援はない。健全な経営を非常に求められている組織である。事業の公平性、透明性、効率性の確保を、業務実績評価を国から受け、厚生労働省に毎年報告している。災害や感染症対応などの緊急時の対応や、国の施策への協力を求められている組織である。

JCHO は全国に 57 施設を持っており、全施設に共通して「健康管理センター」を有している。そのほか、病院によって訪問看護ステーション、介護老人保健施設、看護専門学校、我々職員のための研修センターが新宿に 1 施設ある。我々は教育に非常に力を注いでいる法人である。当病院の概要として、病床数は実動 225 床を有している。診療科は特に昨年呼吸器外科の医師が参り、季節性の疾患等もあるが気胸など、非常に多くの患者様をお受けすることができた。外来診療のみとはなるが、皮膚科や婦人科も診療している。入院病棟は 5 病棟あり、一般急性期病棟は 3 病棟、地域包括ケア病棟は、去年は 1 病棟であったが地域の皆さんに貢献できるように 2 病棟に増やした。

当院の看護部をご紹介します。私たちは病院の理念のもと、看護部の理念として「あなたに会えてよかったと感じていただける看護の提供に努める」べく、日々研鑽している。看護部の職員は約 170 名で構成されており、皆様に特にお知らせしたい点が、当院には「認定看護師」や「特定行為研修」を修了した看護師を有している点である。糖尿病、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、感染管理、認知症等のスペシャリストがいるので、地域の皆様がお困りのことがあった際には、一言お声かけいただけますとお手伝いができると思う。どうぞご活用ください。

また、先ほどお伝えした「地域包括ケア病棟」についてご紹介する。急性期の時期を終えられてご自宅に帰られるときに、もう少し体を休め、通常の体に戻しながらご自宅に帰られてもご不安なく帰られるような準備を行う病棟である。皆様が安心してご自宅に帰られるよう支援しますのでどうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、昨年当院の看護師長が作成した可愛い「ぽかぽか」という公式マスコットキャラクターをご紹介します。このぽかぽかと一緒に我々地域の皆様のための病院を目指していきたいと思っている。

4. 地域連携室からのご報告

佐藤委員より（地域連携室看護師長）

皆さん、本日はありがとうございます。私は地域連携室室長で看護師長の佐藤です。前任の圓館が転勤しましたので、本年度から私の方が努めさせていただいています。行き届かない事がありますが、精一杯努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。

まず、医療総合支援部の体制として、地域連携室と医療福祉相談室、訪問看護室の3つの部隊がある。地域連携室は医療機関や施設から入院などのご紹介患者に関わる窓口となっている。医療福祉相談室は医療ソーシャルワーカーがおり、入院生活や社会復帰に関する心配事の窓口である。また訪問看護室では当院に受診されている患者様の在宅療養の支援を行う部署になるので、何かお困りのことがあった際には、お声かけいただければと思う。人員体制について、地域連携室では室長1名、看護師3名、事務員3名が配置され、皆様が安心して入院できるよう支援し、医療ソーシャルワーカーは2名で対応しスムーズに退院できるよう連携している。訪問看護室の看護師は2名で対応している。私たちは地域と病院を繋ぐ架け橋となっているので、遠慮なくご相談ください。

次に、去年の地域活動についてご報告する。大蒲田祭で当院を休憩所として活用していただき、練り歩きをさせていただいた。ありがとうございました。お祭りが始まる前に、皆さんに向け熱中症の講演をした。本年度も熱中症予防の講演について依頼を受けており、7月4日に伺うので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。大蒲田祭では当院にお神輿が来ていたので入院中の患者様もとても喜んでいらしたということを伺っている。私は練り歩きに初めて参加し一緒に参加したスタッフも大変喜んでいました。本当にありがとうございました。稚児行列にも救護班として一緒に参加し、大きな事故なく地域行事を終了されたのでホッとしている。最後に、大田区の救護所訓練を地域の皆様と一緒に言い、去年の反省も活かして今年も行いたいと思っている。

これからも地域の皆さんの1番近くの病院を目指している。地域の一員として活動するので、小さなことでもまずは医療総合支援部へお気軽にご相談いただければと思う。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

5. 質疑応答

（田中委員）

マスコットキャラクター「ぽかぽか」は可愛いと思う。何がモチーフになっているのか。

（阿部委員）

これは蒲田の「黒湯温泉」をモチーフにしており、フワフワとした浴衣を羽織って、ホッとするような温かい癒しを届ける存在になりたいという思いで作らせていただいた。お手元にあるファイルも作成し皆様へ配布させていただいた。

(薄井委員)

このキャラクターは商標登録などの権利関係はされたか。誰かに先に取りられてしまうと大変である。

(阿部委員)

まだそこまではしていないので早めに検討させていただく。ありがとうございます。

(増田委員)

南蒲田三丁目にある元看護師南蒲田寮に、カラスの巣があり、カラスがうるさく困っている。病院へ連絡したのだが改善できておらず早めに対処していただけないか。

(岡村委員)

ご迷惑をおかけし申し訳ない。対応させていただきます。

6. 各委員からのご要望、意見交換

(西村委員)

私はこの4月から保健所長として参った。これまでは東京都の健康安全研究センターなどにおり、コロナ禍の5年間はずっと感染症対応をやっていた。その中で痛感したのは、「日頃から誰が何をしているかを知っておき、顔の見える関係を作っておくこと」の重要性である。コロナ最前線で活躍していた人に話を聞き、1番経験して重要だと思ったことは、「色んなところに信頼できる人が1人でもいるかどうか」だと言っていた。急時には特にそう思うし、こういった協議会の場を通じて、お互いの顔や専門性を知っておくことは非常に重要だと思う。この協議会でどのような方が参加し、どのようなことをやっているのかを知ることから始めようと思い本日参加した。保健所が出来ることを色々教えてもらい、またこちらからの病院への依頼や研究に興味がある方へは橋渡しになればと思い、ぜひいろいろご意見をいただきたいと思っているので、よろしくお願いいたします。

(宮島委員)

今日はお話をいただきましてありがとうございます。私は院長交代して3年経ち、忙しい毎日を過ごしており、東京蒲田医療センターの皆様も運営は大変ではないかと思う。医療は地域にとって重要なインフラであるので、今後も病診連携を含めて地域の人が困らぬよう協力していきたいと考えている。今後ともよろしくお願いいたします。

(小泉委員)

いつもお世話になっております。私どもの施設はショートステイのベッドが11床あり、緊急時の受け入れをしている。その中で問い合わせがあったところは通常受け入れしているが、特養では医療的な対応に限界があるため、東京蒲田医療センターさんに受け入れ

ていただいている。また特養では感染症を蔓延させないように注意を払っており、林看護師長さんに常日頃ご助言いただいているので、現場に即したアドバイスをいただき心強く思っている。現在、当施設は大規模改修を控えており、ご利用の方は8月をもって住み替えとなるが、特養穂谷で大規模改修を経て6月からオープンした。引き続き今後ともお世話になるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(薄井委員)

信頼や信用をどう作っていくか考えたときに、コミュニケーションを取ることは大切だと改めて思う。自分の会社では、職種が多く研究職から製造職まで様々な人がいるので、まずは顔を知っていくことが大事だと思う。病院も様々な職種がある中で、皆さんが努力していることをずっと見てきて、とても良くなってきていると思う。私は1月から2月にかけて看護師さんにお世話になり、先程話されていた「ここであなたに会えてよかったと感じていただける看護」にとっても共感した。頑張ってください。

(佐藤委員) (南蒲田一丁目自治会会長代行)

毎年1回災害救護活動を東京蒲田医療センターさんで参加させていただいている。日頃なかなか経験しないことなので、毎年1回必ず開催して、病院の流れや薬剤師の仕事内容などの理解を深めていきたいと思う。また最近ロボットで行う手術が多いみたいだ。経験のある人の手で行う方がよいのか、ロボットで行う方がいいのか教えていただきたい。

(田中委員)

病院が地域に何を求めているかを明確にさせていただいた方が我々も地域の方々に向けて動きやすい。病院に通院される方を増やすためにチラシを配るなどこの街を活用してより近い関係性で協力できればいいなと思っている。よろしくお願いいたします。

(増田委員)

救護所訓練に私も参加させていただいている。患者役で運ばれる方は流れが分かるが、それ以外の見学者側はそこで何が行われているかが分からないようだ。案内役がいるともっと地域住民を呼びやすいと思うので、よろしくお願いいたします。

(田村委員)

ご意見ありがとうございます。救護所訓練の説明役については、確かに職員も与えられた役割に没頭してしまうことがあり、説明する役割を担った全く別の人を立てると、皆様に非常に分かりやすく伝わると思うので検討させていただく。ロボット手術については、現在のロボット手術は手ぶれがない。細かいところは正直人間の手で直接行うよりも精密に細かい作業ができると思う。ロボットに付いているカメラも人間の裸眼よりも鮮明に見えると思う。ただ実際適応となる疾患がまだ規定できていないのが現実であ

る。いつの日か導入できたらと思っている。

(阿部委員)

今月から大田区健診が始まっており、当院2階に健康管理センターがありご存じない方もいらっしゃるのでぜひご活用いただけたら嬉しいと思っている。もしよければどこかの病院に通うか迷っていらっしゃったら、ぜひお声かけいただきたい。

以上